

# JAMP information

## JAMP OB座談会

全国各地の自治体から市町村アカデミー（JAMP）へ派遣されていたOB教授（※）の皆さんにお集まりいただきました。今回お話を伺ったのは、それぞれの派遣元自治体へ戻り、7年以上が経った今も、一緒に旅行へ出かけるなど親睦の深い6名の皆さん。JAMP派遣時代はどんな仕事に携わっていたのか、そこで得た経験は今のどのような形で役立っているかなど、ざっくばらんにお話いただきました。

※ 教授：市町村アカデミーにおける役職の一種。研修の企画や実践等を主に担う。

### ● JAMP OB教授の皆さん（カッコ内は派遣元自治体・派遣年度）

（2列目左から）

- ① 左 安部 浩成 さん（千葉市・H28-29）
- ② 中 和田 将洋 さん（北九州市・H28-29）
- ③ 右 西山 雅文 さん（長野市・H29-30）

（1列目左から）

- ④ 左 依田 元一 さん（長野市・H27-28）
- ⑤ 中 神原 徹 さん（岡山市・H27-28）
- ⑥ 右 山越 重範 さん（広島市・H27-28）



#### 1. 市町村アカデミー（以下JAMP）ではどのような仕事をしていましたか？また、現在はどのような仕事をしていますか？

**神原**（以下敬称略）：担当する研修の企画・実施のほか、JAMPでの研修を全国各地へ出張して行う「巡回アカデミー」の担当などをしていました。60歳で退職し、現在は再任用職員として、秘書課で文書起案等の庶務的な仕事に従事しています。

**依田**：JAMPでは、他の教授の皆さんと同じように、担当する研修の企画を行った他、所内での懇親会の幹事のようなこともやっていました。現在は、役職定年となり、広報広聴課の専門員として、広報紙や市政TVの企画などの仕事をしています。

**山越**：JAMPでは、次年度の研修計画を安部さんと一緒に策定していました。現在は、消費生活センターの所長を務め、今年度で役職定年を迎えます。

# JAMP information

**和田**：私も、巡回アカデミーや担当する研修の企画などを行いました。今は芸術文化振興財団に派遣され、演劇や音楽のイベントを開催するホールの運営を行い、新鮮な毎日を送っています。

**安部**：山越さんと共に、次年度の研修計画を担当していました。研修計画は、千葉市と広島市から派遣の教授で例年タッグを組んで作っていました。現在は、千葉市の市民自治推進部長を務めています。

**西山**：依田さんの後任としてJAMPへ派遣され、研修の企画・運営のほか、図書館の運営なども行っていました。現在は、職員研修所の所長として、JAMPへの研修生を送り出す他、自ら講師としても活動し、JAMPの研修にも出講しています。

## 2. JAMP派遣時代の印象深いエピソードはありますか？

**和田**：毎日が初めてのことで、とても楽しかったです。50歳を迎えて、初めての一人暮らしも経験しました。巡回アカデミーでは、山形県、岡山県、富山県へ行きました。また、講師の折衝で高知県へ出張した際は、話が弾む余り、帰りの飛行機に間に合わず、急遽宿泊したこともありました。

**山越**：初めて企画を担当した研修は「情報公開と個人情報保護」という科目でした。著名な講師とのやりとりに感動したことを覚えています。また、自分が初めて依頼した講師が、今でも出講していることを知り、少しでも爪痕を残せたとも感じています。

**西山**：研修というものに携わることが初めてで、参加したこともありませんでした。だんだん面白くなってきて、企画だけでは物足りなくなり、自分自身が講師として登壇するようになりました。講師として活動する中で、改めて勉強したり、資

格を取ったりするなど、JAMPへ来てから人生が大きく変わりました。

**依田**：お酒の取り扱いが厳しく、研修生が途中で退所したことがありました。その時の研修生の青ざめた顔は忘れられません。現在は、研修初日に行われる研修生同士の交流会「情報意見交換会」の開催時間は1時間とのことですが、以前は2時間くらいやっていた記憶があります。同僚や研修生との交流は思い出深いです。

**神原**：熱心な研修生は、夜中まで議論を行っていて、担当教授として、最後まで課題演習に付き合いました。うまくいっている班には、あえて課題を投げかけ、困っている班には手助けをするなど研修生にとって、少しでも充実した研修となるように、自分なりに工夫をしました。研修生は、各自治体を代表してきているという気持ちが強く、精一杯知識や経験を得て帰ろうという熱意が感じられました。そのような熱い思いが、今も続いてほしいです。

## 3. JAMPでの経験は派遣元へ帰ってからどのように役立ちましたか？

**和田**：帰任後、女性活躍推進課に配属され、ウーマンワークカフェ北九州の担当課長になり、女性の就業支援のためのセミナーなどを主催しました。講師に誰を呼ぶのか、どんな内容の講演にするのか等、悩むこともありましたが、JAMPでの経験が多いに役立ちました。また、講義だけを行っても効果的ではないので、ワークショップも取り入れました。今従事している財団の仕事は、JAMPのように、市の職員と財団職員と一緒に仕事をしています。チームワークやコミュニケーションの回り方など、JAMPでの経験が活きていると感じます。

**依田**：長野市へ帰任してから、JAMPでお世話になった講師を呼び、研修を行いました。

# JAMP information

研修に呼ぶ講師について相談を受ける際も、JAMPで得た人脈や経験のおかげで紹介できる講師陣の引き出しが増えました。また、高額な謝礼をお支払できなくても、ご厚意で出講いただく等、JAMPというご縁が、講師からの信頼につながっているとも感じています。

**西山：**現在、研修所の所長に就任しているため、研修へ講師を呼ぶ際に、JAMPでの経験が役立っています。実際に自分が聴講し、やりとりを行った講師と、インターネットや情報誌だけから知る講師とでは、やはり大きな違いがあります。

またJAMPでは、担当教授がそれぞれの個性やカラーを出しながら、講義開始時のオリエンテーション等を行っていました。研修所でも、皆さんの言い回しを参考にさせていただいています。

**山越：**今までやったことがなかった新しい仕事をする中で、様々なことを一通り勉強できました。例えば、政策企画の科目研修を担当した時は、政策の基本体系を勉強し、市の基本計画に携わったことがなかったので、計画の策定について学んだりしました。

**神原：**帰任した後、「燃え尽き症候群」みたいになりました。JAMPでの仕事がそれほどまでに充実していたからだと思います。JAMPで得た財産を一言でいうと「人とのつながり」です。研修生、講師、同僚、上司とのご縁に恵まれ、色々な人と関わり、議論をするという経験が、上席として仕事をする様々な場面で役立ちました。

**安部：**私も人のご縁が一番の財産です。今でも、仕事をする中で実務上の課題があると、JAMP時代の同僚にフラットに聞くことができます。また、派遣中に情報誌へ寄稿したことがきっかけとなり、出版社から書籍執筆のオファーをもらい、共著を含め、現在までに5冊の本（※）が出版されました。執筆の際も、自分の経験だけではなく、各自治体の取組や講義で得た知見など、研修企画の経

験が役立ちました。本の推薦文は、山越さんに書いていただきました。

## 4. 最後に、これからのJAMPへ期待することやメッセージはありますか？

**安部：**JAMPの研修で優れている点は、専門家の理論と現場の実践が融合しているところです。現場での実践はいわば社会実験であり、この2つが化学反応を起こします。最先端の課題に直面する基礎自治体にとって、このアプローチはとても有効で、それぞれの自治体において、何かしらのヒントがあります。

**山越：**広島市からJAMPへは、私だけでなく、1987年のJAMP開校以来、継続的に職員が派遣されています。JAMPが続く限りは、これからも職員を派遣していただきたいです。

**依田：**JAMPは、全国の自治体職員等が一堂に会し、研修を受けることができる貴重な場です。以前は研修の一環で、レクリエーションとしてスポーツなどもしていました。JAMPならではの特性を活かしたネットワークづくりの環境を整え、研修生同士の仲間づくりを促してほしいです。

**和田：**研修生同士の仲間づくりは、オンラインでは難しいので、JAMPには、これからも対面形式で研修を実施していただきたいです。

また運営面では、JAMPの職員が様々な業務を経験し、研修の企画から実践まで行うことで、私たちのような自治体から派遣された職員ともよりよいチームワークが築いていけると思います。今は、若手職員も研修の企画に携わる機会があると聞き、とても良いことだと感じています。

**西山：**私が今いるような市町村の職員研修所は、自治体ごとに単独で動いているので、各自治体の研修担当者同士が意見交換できる機会があると嬉しいです。9日間といった長期の研修に、人材を送り出す余裕がある自治体は少ないのが実情です。

# JAMP information

特にコロナ禍の時などは、他の自治体はどのような対応をしているか、もっと知りたかったです。

**神原**：これからの時代は、より一層多様性が重視されると思います。多様性を認めるということは、正解は一つではないということです。正解が一つでないなら、どうやったらそれぞれの地域の人た

ちが少しでもよい暮らしができるのか、研修生同士と一緒に考え、議論し、お互いに刺激し合える…

JAMPはこれからもそんな役割を担い続ける場であってほしいです。

- ※『はじめて部下を持ったら読む 公務員のチームマネジメント』（学陽書房、2020年）
- 『仕事がうまく回り出す！ 公務員の突破力』（ぎょうせい、2020年）
- 『自治体職員のための市民参加の進め方 ～主な手法、進行の方法から関係づくりまで』（学陽書房、2022年）
- 『感染症危機管理と自治体 ～新型コロナから考えるこれからの公共政策』（共著、ぎょうせい、2023年）
- 『市町村職員研修 いちからわかる！ 地方公務員仕事のきほん 改訂版』（神原徹・西山雅文ほか共著、ぎょうせい、2024年）



岡本学長との記念写真



座談会の様子